

宮城山岳通信 第8号



親子登山 笹倉山

2016.11.6(公益社団)日本山岳会宮城支部

目 次

☆支部長挨拶	富塚和衛・・・・・・・・・・	1頁
☆定例役員会報告	事務局・・・・・・・・・・	2～6頁
☆月例山行報告		
(A) 共益事業		
冬山山行	今野俊一・・・・・・・・・・	7頁
厳冬期山行	太田 正・・・・・・・・・・	8頁
早春山行	千石信夫・・・・・・・・・・	9頁
(B) 公益事業		
第3回親子登山教室	三宅 泰・・・・・・・・・・	10頁
第4回登山教室	三宅 泰・・・・・・・・・・	11頁
☆エッセー編		
エベレスト街道トレック	富塚和衛・真味子・・・・・・・・	12～16頁
☆編集後記	三宅 泰・・・・・・・・・・	17頁

支部長挨拶

☆支部長就任に当たって

平成 29 年度の総会が仙台市シルバーセンターで行われました。その席上におきまして、公益社団法人日本山岳会宮城支部の支部長を仰せつかり、困惑したのが正直なところでしたが、会員皆様の温かいお言葉もあり、第 10 代の支部長をお引き受けすることに意を決しました。

基より、歴代の支部長に比して、山歴の浅い私には山に関する知識も登山に関する技術ありません。従いまして、宮城支部の運営に当たっては、会員、準会員、そして支部友の皆様のご理解とご協力なくしては、この大役は務まらないと思っております。この点を忖度いただき宜しくお願い申し上げます。

ここで、私と山の関わりを若干ですが触れてみたいと思います。私の生まれ故郷は秀峰栗駒山の麓の築館町です。栗駒山は高校の校歌の歌詞にもなっている大変身近な山でした。然し、山を駆け巡って育った私には、あまり興味が無かったように記憶しています。山より海に興味があり、小学生時代に林間学校で体験した石巻渡波海水浴場での海とのふれあいを今でも鮮明に覚えています。以来海との関わりは「船釣り」で今でも続いています。

登山に目覚めさせた最初の山は、標高が東北一の山でもある「燧ヶ岳」でした。40 代前半のある年の夏に女房と尾瀬ヶ原の散策旅行に出かけた事が有りました。2 日目の朝早く宿泊した尾瀬沼ヒュッテを出発して尾瀬ヶ原に向かった折、我々の

支部長 富塚和衛

前を 60 代のご夫婦が歩いていました。そのご夫婦がオオシラビソの林で道を右に取られたのですが、後を付いて行ってしまったのです。その道は「燧ヶ岳」へ続く登山道だったのですが。結局、苦勞しながらも「燧ヶ岳」の山頂まで登ってしまいました。この時に肌で感じた山の涼風の清々しさや可憐な高山植物、そして何と云っても山頂にいた山岳人の心の優しさ深さに感動したのです。それは疲れ果てた我々に山では大切な「命の水」を分けてくれたのです。これを機に我々夫婦は、狂ったかのように全国の山々を駆け巡り、また、夫婦会員として日本山岳会にも加入させていただき、山との関わりを続けて来ました。我々夫婦の登山の原点は、この無謀な「燧ヶ岳」登山が始まりでした。

宮城支部を取り巻く環境も年々厳しさを増していることは皆さん周知のとおりです。会員の高齢化と減少は如何ともし難いところがあります。然し、それに挫けることなく会員が一丸となり、支部の活性化方策の検討実行と、多くの県民に「山」への関心を持って貰える様親子登山教室等の公益事業の更なる工夫充実を鋭意図り、これが将来大きな幹になることを信じて、安全で明るく楽しい支部事業を、支部会員、支部準会員、支部友会員の力を合わせて推進して行きたいと思っております。皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

定例役員会議事録

☆平成 28 年 10 月定例役員会議事録

日 時：10 月 26 日(水)18:30～20:30

場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室

出席者：佐藤支部長、三宅副支部長、千葉、
柴崎、高橋（二）、木皿、高橋功、
太田、中條、鳥田、遠藤、千石、
冨塚（和）、冨塚(真) 計 14
名

《審議事項》

(1) 第 4 回登山教室(11.27)について

オボコンベ山で実施する旨、山行集会
委員長から説明了承される。

(2) 支部晩餐会（望年会）について

12 月 11 日、シェルブール仙台で例年通り実
施する旨、事務局から説明了承される。

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

①山岳関係機関等からの情報受理状況

本部、他支部等からの情報受理状況を
資料に基づき事務局から概要を報告した。

②柴崎会員の会長特別表彰について

福島第一原発事故の影響に係る空間放
射線量調査の功績に対し、柴崎自然保護
委員長を、日本山岳会会長特別表彰に佳
くする旨の書簡が宮城支部長宛て届いた
旨を佐藤支部長から報告

③会員の支部入会予定について

仙台在住日本山岳会会員から所属移動
届がなされる旨、事務局から報告。

(2) 山行集会委員会からの報告

①第 3 回親子登山教室の申し込み状況に ついて

公募したにもかかわらず申し込み状況
は芳しくない旨の報告有り。

(3) 他委員会からの報告

①宮城山岳通信 7 号の編集進捗状況につ いて

編集対象期間を変更したことに伴い、
記事が多くなったものの、順調に作業が
進んでいる旨、担当委員長から報告有。

②第 4 回登山教室指導養成講習会の結果 について

10 月 15 日～16 日、主催：(公社) 日
本山岳会支部事業委員会による講習会
を宮城支部主管の下に実施。その概要
報告が、高橋（二）リーダーから有り。

《その他》

①槇有恒寿翁に係る P・T 打合会の開催 について

木皿リーダーの下、メンバーによる打
合会を近々に実施したい旨、事務局から
説明する。

②「御山詣り」蔵王古道案内図について

蔵王ガイド協会が主催する「御山詣り」
の為の蔵王古道案内図について、冨塚か
ら説明有り。

③ビアパーティ開催結果について

木皿会計幹事から、参加者数、収支報
告等について報告有り。

平成 28 年 11 月定例役員会議事録

日 時：11 月 23 日(水)18:30～20:30

場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室

出席者：佐藤支部長、三宅副支部長、柴崎、
高橋（二）、木皿、高橋功、太田、
遠藤 計 8 名

《審議事項》

(1) 第 4 回登山教室(11.27:ホココンバ)について

公募参加者 14 名、会員及び支部友を加えて 27 名の参加。参加者多数のため移動手段の検討が要。会員への協力要請が山行集会委員長から有り。了承される。

(2) 平成 28 年度 (12.3) 支部長会議について

本部では、「会員（準会員）増の取組みについて」がテーマになる予定であること、特に準会員の加入についての意見交換が行われる見込みであることが支部長から話題提供された。同時に行われる本部晩餐会への参加者は 8 名の予定であるむね、報告された

(3) 支部晩餐会（望年会）について

12 月 11 日、シェルブール仙台を会場に開催予定。ホクシヨも例年通り実施予定である旨、支部長から説明。

メール案内は来ているが、ハガキ案内が未だの様だの意見あり。事務局不在につき詳細は帰国後になる旨説明。了承される。

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

①山岳関係機関等からの情報受理状況

事務局欠席につき、次回報告。

②第 4 回登山教室指導者養成講習会の負担金

本部が持つとの連絡があるも、支部への振り込みはまだ。高橋（二）担当から説明有り。

③「宮城山岳通信」第 7 号の発送

会員と支部友には郵便で発送する。他支部等への発送は事務局帰国後、安いクロネコヤマト DM 便で。編集は重要度を考慮の上行すべき。誤字が多いなどの意見が出た。

④第 1 回榎有恒「プロジェクト」打合結果

木皿リーダー、遠藤から長い取り組みになる。しっかりした内容を積み重ねる旨の報告有り。柴崎を PT から外したのは何故かの意見有り。

(2) 山行集会委員会からの報告

①第 3 回親子登山教室（笹倉山）の実施結果

2 家族 8 名の参加。教室として蜂と熊の対処法について学習した。蜂用のエビペン代は支部が支出した旨、山行集会委員長から報告有り。

《その他》

①12 月役員会の中止について

12 月は晩餐会がある為、役員会は中止とする。緊急課題があれば開催する旨、周知した。

平成 29 年 1 月定例役員会議事録

日 時：1 月 19 日(水)18:30～20:30
場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室
出席者：佐藤支部長、三宅副支部長、鈴木、
柴崎、鳥田、太田、遠藤、中條、
冨塚(和)、冨塚(真) 計 10 名

《審議事項》

(1) 支部友会会員制度と準会員制度の今後の取扱いについて

準会員制度が出来た。準会員は 3 年目で会員になるか、退会するかを選択あり。支部友会会員も 3 年でケジメを付けるべきではとの発言が支部長から有り。結論出ず。

(2) 泉ヶ岳登山支援事業について

市内小学校が実施している泉ヶ岳登山の支援を公益事業の充実の観点から事業として取り組む事について事務局から説明。了承される。

(3) 山行等事業終了後の報告書提出について

事業終了後、次月の役員会前に事務局へ提出する事を山行集会委員長から提案、了承された。なお、報告書は宮城山岳通信の原稿として利用されることとなる。

(4) 古稀を記念した会員への着衣贈呈について

過去の経緯について 2 論が出され、結論が得られず。次回役員会へ持ち越しとなった。今後の対象者をリストアップし、支出がどの程度なのかも検討の上、結論を出すことにした。

(5) 厳冬期山行計画について

2 月 18 日(土)宮城蔵王刈田岳で実施す

る旨山行集会太田委員から説明があった。

《報告事項》

(1) 総務財務委員会からの報告

①支部長会議及び本部晩餐会の報告
支部長から概要報告あり。

②山岳関係機関等からの情報受理状況
本部、他支部等からの情報受理状況を資料に基づき事務局から概要を報告した。

特に、第 33 回東北・北海道地区集会開催の案内、宮城山岳環境指導員の委嘱、「新日本山岳誌」の印税額、平成 29 年度支部事業計画、予算書の本部からの提出依頼などについて説明が事務局からあった。

③支部準会員の加入者について

事務局から加入者 1 名を報告。

④支部友会会員の退会について

事務局から退会者 1 名を報告。

(2) 山行集会委員会からの報告

①冬山山行結果について

担当者欠席のため山行集会委員長から概略説明。一般も含め参加者は 9 名。

(3) 他委員会等からの報告

①晩餐会(望年会)開催結果について

参加者は 22 名。ホクシヨも協力を頂き、売上げは 2 万円超に。売上金は支部の収入として処理予定。以上事務局から報告。

《その他》

①泉ヶ岳元旦登山について

今年も、10 名を超える登山者があった。

②放射線測定結果に関して

柴崎自然保護委員長から報告書(別刷)は大学等から要望多数。平成 29 年度は調査データの整理をする予との発言あり。

平成 29 年 2 月定例役員会議事録

日 時：2 月 15 日(水)18:30～20:30

場 所：仙台市市民活動サポートセンター3F
会議室

出席者：佐藤支部長、三宅副支部長、鈴木、
鳥田、中條、高橋（二）、高橋功、
冨塚（和）、冨塚(真) 計 9 名

《審議事項》

(1) 古稀を記念した会員への着衣贈呈について

着衣を贈呈するか否かについて話し合いでは合意が得られず決を取った。その結果、着衣は遡って対象者に贈呈することにした。

贈呈する着衣については、本部からロゴ入りTシャツを購入したものに、「宮城支部」「会員番号」をプリントし、合計金額を 5,000 円程度で仕上げることで合意された。

(2) 早春山行（阿武隈山地）について

担当が欠席のため、山行集会委員長から主に遊歩道を歩く四方山を対象とした 3 月 26 日実施予定の山行計画の概要が説明された。

(3) 平成 29 年宮城支部総会について

平成 29 年度の総会は 4 月 8 日(土)に仙台市シルバーセンターで 16:30 分から開催すること。今年度の総会は役員改選の年であること。併せて、宮城支部規約の改正を行う予定であること。また、総会終了後に仙台駅前の居酒屋で懇親会を行うことなどについて事務局から説明があり了承された。

《報告事項》

(1) 総務財務委員会からの報告

①山岳関係機関等からの情報受理状況

本部、他支部等からの情報受理状況を資料に基づき事務局から概要を報告した。

特に、平成 28 年度第 5 回登山教室指導者養成講習会の募集及び支部事務局長更新（青森支部）について、概略説明した。

②平成 28 年度支部事業・会計報告書提出について

本部から提出依頼があり、それぞれ支部長の専決で措置する旨、説明し了承される。

③第 33 回東北・北海道地区集会参加者について

実施主体の青森支部に参加を申し込んでいる支部会員は 5 名で、3 月末までに参加費を納入する旨を事務局から説明。

④退会者について

健康を都合に 2 名の会員から退会届が提出された旨を事務局から説明した。

(2) 山行集会委員会からの報告

①厳冬期山行委員会からの報告について

2 月 12 日予定通り山行を実施するも、途中から悪天候に見舞われたため、余儀なく中止となった旨、欠席の担当に変わって山行集会委員長から報告があった。

(3) 他委員会からの報告

①日本山岳会会長特別表彰者の表彰祝賀について

表彰祝賀会開催の提案があり、3 月例会で再度話し合いをすることにした。

《その他》

特になし

平成 29 年 3 月定例役員会議事録

日 時：3 月 15 日(水)18:30～20:30

場 所：仙台市市民活動サポートセンター3F
会議室

出席者：佐藤支部長、三宅副支部長、鈴木、
柴崎、遠藤、鳥田、中條、太田、
高橋功、冨塚（和）、計 10 名

《審議事項》

(1) 平成 29 年度総会資料について

①平成 28 年度事業報告について

資料（総括表、主要事業の概要）に基づき事務局から説明。空間放射線量調査事業の記載で、柴崎自然保護委員長の日本山岳会会長特別表彰の件を追記すべきとの意見があり、追記することとした。

②平成 29 年度事業計画（案）について

資料（総括表、主要事業の概要）に基づき事務局から説明。特に新規事業として取り組む仙台市内小学校泉ヶ岳登山支援事業及び榎有恒翁学習活動TP打合会について詳しく説明した。また、親子登山教室事業については市町村教育委員会の後援を受けて実施していく旨を説明し了承された。

③役員改選案について

事務局から新執行部を含む役員改選案を説明。了承された。

④委員改選案について

委員は役員を当てるべきとの意見及び一部委員は委員になじまないとの意見があり、これらの意見については規約改正で対応することで了承された。

⑤規約改正案

準会員の制度追加に伴う規約改正及び

④に基づき規約を改正することが了承された。

(2) 柴崎自然保護委員長の日本山岳会会長特別表彰に関して

2 月定例会議に引き続き、話し合いを行った。その結果、提案のあった祝賀会形式ではなく、総会時に特別表彰報告会について実施する事で合意した。

(3) 春山山行について

山行集会委員長から宮城支部のHPに「親子で楽しむ山登り」として紹介されている「戸神山」で登山道整備を併せて行う山行計画が説明された。

《報告事項》

(1) 総務財務委員会からの報告

①山岳関係機関等からの情報受理状況

本部、他支部等からの情報受理状況を資料に基づき事務局から概要を報告した。

特に、本部会章等の使用に関する規定の改正について、平成 29 年度本部事業について、「親子で楽しむ山登り」缶バッジについて詳しく事務局から説明した。

②山形支部らの合同山行の打診について

前向きに検討していく旨を事務局から説明。実施の際、宮城支部が担当。

③入会者について

準会員が 2 名入会予定である旨支部長から報告有り。

(2) 他委員会からの報告

①宮城支部通信第 8 号発行準備について

会報・編集出版委員長から平成 28 年 10 月～29 年 3 月期の原稿依頼があった。

《その他》

①宮城支部周年事業に係る資料の配布

月例山行報告

【A】共益事業

☆冬山山行（面白山）

- ・実施日：平成 29 年 1 月 15 日(日)
- ・コース：面白山高原駅（仙山線）～かもしかコース～面白山山頂⇄往復
- ・参加者：(支部会員)佐藤昭次郎、太田正、宇都宮昭義、松田照夫、草野洋一
(支部友会会員) 山田ふきこ (一般)相原政稔、佐々木祐一 計 7 名

- ・報告：担当 今野 俊一 記

J R 仙台駅 7:07 発、仙山線山形行きにて出発。ここ 2～3 日の急な雪のため、10 分ほど遅れて面白山高原駅に到着。駅周辺には 50cm 以上の積雪で、早々全員、ワカンを着けての出発となる。8:30、駅北の登山道入口より沢筋に入り、右の尾根に取り付き直登する。支部長が先頭に立ち、快調に高度を稼ぐ。新設の割には、湿って重い雪質である。登り始めは、少し青空も見えたが、また雪が降り出す。風が弱いのが救いだ。その後、積雪も多くなり、短く交代しながらラッセルする。場所によっては、胸までのラッセルとなるが、特に、支部友会会員の山田ふきこさんの根性の頑張り、太田会員の若い友達 2 名の活躍で高度を上げていく。

12 時頃、天童高原より長左衛門平への巻き道に到着。ここで、皆でツェルトを被り昼食とする。ここから頂上までは、まだ 2～3 時間かかるだろうと言う事で、帰りの電車の時間を見て下山となる。帰りは快調に下り、13:40 面白山高原駅に到着。予定通り、15:22 発の電車にて帰仙となりました。皆、快い疲労感で満足な山行でした。

《面白山：1,265m》

面白山は、脊梁主脈の宮城・山形県境に沿い笹谷峠以北に連なる面白山火山（二口山塊）の北隅にあり、仙台市太白区と山形県東根市と山形市にまたがる。山名は残雪時の白い山面に由来する。また、黒伏山と水晶山が争った際、面白そうに眺めていたという伝説がある。山頂は風衝低木林からなり、眺望に恵まれている。面白山から県境分水界は、山形県側の紅葉川（立谷川支流）の源流部を湾曲しながら南面白山に至る。

《南面白山：1,225m》

南面白山は仙台市太白区と山形市にまたがり、南東のこの山塊での最高峰・大東岳への支脈を分ける。地域主部は蔵王国定公園、外縁部は県立自然公園二口峡（宮城県側）および天童高原県立自然公園に指定されている。

☆厳冬期山行（蔵王刈田岳）

- ・実施日：平成 29 年 2 月 18 日(土)
- ・コース：澄川スノーパーク→大黒天→刈田岳山頂（往復）
- ・参加者：(支部会員)佐藤昭次郎、太田正、(支部友会会員) 山田ふきこ
(一般)遠藤幸寿

・報 告：担当 太田 正 記

今回は 4 名の参加でした。(ワカン 3 名・スノーシュウ 1 名)。遠刈田温泉共同前浴場 7 時集合で元気いっぱいの出発。澄川スノーパークに駐車し 7 時 35 分に歩き始める。上部に登るにつれ風が強まり、大黒天を通過するころには視界も 20m～30m となり、強風で身体が飛ばされないように前かがみになって進む。本日の仙台市の最高気温は 4 度だが、前日は暖かく気温差は 11 度もあり、樹氷は前日の降雨の所為で溶けてしまい、山頂付近でしか見られなかった。

風速は 15m 位か雪交じりの強風となり、視界も悪くなる一方で鼻水を垂らしながらこれ以上進んでも意味がないと、リベンジを誓い石室避難小屋手前で下山することにした。途中あまり風の当たらない場所で昼食をとり、登山口に到着したのは丁度 12 時頃でした。

(追記) 2 月 28 日(火)待っていた移動性高気圧。今日は朝からドッピカア～ン。早々リベンジを果たすため山に向かう。9 時発のリフトで最上部へ行きシールを着けて刈田岳へ。先行する 5 名はもう井戸沢直下を登っている。その他、後続 2 パーティ、一緒の単独者若者は何とアイゼンを着けている。もう 2 月末「ツボ足」でも歩けるのです。

群青色の空と太陽がまぶしい中、10 日前に撤退した場所を通過したが、石室避難小屋までは約 30m 位であった。

刈田岳山頂(11 時)についてビックリ、

老若男女 10 名程の団体と、それぞれ少人数のパーティが数組おり賑やかなこと。坊平スキー場から来たそうで続々とやって来る。山頂からは吾妻・飯豊・朝日の連峰、そして月山が眺められ、空の色と相まって素晴らしい冬山の景色を何年ぶりが堪能する。僅かの休憩をとった後、山形側に滑って行ったが、途中は樹氷原で大きくはないが見事な樹氷がまだ溶けないで残っている別世界で、こんな樹氷斜面いっぱい見渡せるとは思わなかった。

アイスバーンで快適な滑走とはいかなかったが、坊平スキー場（蔵王ライザワールドスキー場）に 11 時 40 分頃到着し、レストハウスで昼食を取った後、スキー場リフト終点を 12 時 30 分に歩き始める。

山形側のルートは良く整備されておりスキー場から馬の背までのポールが立っていて、雪道は踏み固められて広い道路のようだ。宮城側より登山者が圧倒的に多いのもむべなるかな。14 時に再び刈田岳山頂に着いて暫し休憩。宮城側に下るのは私一人だけで、無風快晴の中、のんびり滑って来たが 20 分位で澄川レストハウスに到着する。



☆早春山行（四方山）

- ・実施日：平成 29 年 3 月 26 日(日)
- ・コース：愛宕山入口→鴻ノ巣峠→閑居山(204.4m)→夜討坂→月山神社分岐
→黒森山(255.0m)→四方山(262.5m)
- ・参加者：(支部会員)佐藤昭次郎、富塚和衛、富塚真味子、高橋功、三宅泰、
遠藤銀朗、千石信夫、松田照夫（支部友会会員）山田ふきこ、川島郁子
村上せつ子、津田久美子、赤間敏子、白田昭一、村上敏郎
(一般)遠藤幸寿 計 16 名

○報告：担当 千石信夫 記

8:30、亙理町の中央公民館に集合し、全員で愛宕沢登山口に移動。車を 3 台ほど四方山に回送してから 9:20 登山開始。稜線に出るまでは林間コースを辿る。しばらくすると角田市方面の先に雪を頂いた蔵王連峰が見えて来るが雲ではっきりは見えない。稜線の途中の峠に「夜討坂」の看板があった。戦国時代に伊達氏がこの道を通って相馬氏に夜襲をかけたと書いてある。歴史を感じるところだ。

その先を行くと、所々に視界が開け景色を楽しみながら歩くことが出来る。左手には太平洋が広がり牡鹿半島が見える筈だが、今日は薄らとしか見えない。麓の亙理町の街並みや鳥の海などが見える。



参加者記念写真（四方山）

途中、山菜などないかと探す人もいたが、フキノトウぐらいしか見つからない。今回は 4 名の参加でした。

黒森山に到着すると稜線西側の角田方面から仙台方面までの展望が出来ればし休憩を取る。ここには 1 等三角点があるのを確認、高橋功さんから三角点についての説明を聞く。

その後しばらく辿ると、四方山の電波塔が見えて来る。間もなく四方山に辿り着く。ここは角田市、亙理町、山元町に接する山で山頂には桜の木があって、その時期には花見が楽しめる。四方山の展望台では 360 度の眺めを堪能し昼食。その後、回送しておいた車に分乗し登山口に戻り解散となった。



黒森山の一等三角点

【B】 公益事業

☆第3回親子登山教室（七ツ森 笹倉山）

- ・実施日：平成28年11月6日
- ・コース：七ツ森湖畔公園管理事務所＝御門杉登山口―亀ノ子石―笹倉山（往復）
- ・参加者：（支部会員）太田 正・遠藤銀朗・細川光一・佐藤昭次郎・川名久子・千葉正道・三宅 泰（支部友会員）山田ふき子・川嶋郁子（一般参加者）番場 翼（同）しのぶ・（同）葉奈・（同）琴葉・（同）葉純・大坪嘉行・（同）和香子（同）美乃里（計17名）

・報告：担当 三宅 泰 記

平凡ではなく、どこかピリッとして、それでいて子供たちの冒険心をそそりそうな山…親子登山にふさわしい山をあれこれ考えているうち、ふっと浮かんできたのが七ツ森の笹倉山だった。さっそく下見に…結果は頂上直下の急斜面が子供にはとてもムリとわかり、ボツ。

次に考えたのが、同じ七ツ森の最高峰、笹倉山。ところが、役場の情報ではこの山には最近、スズメ蜂が横行しているとのこと。ここで我が支部長の判断は、けだし、名言(?)だった。

“どんな山にもクマもいればマムシもいる、ハチなど、何処にいてもおかしくはない、まず、登るべし！”

但し、対策は万全を期すことにし、被害を受けた場合の補助治療剤「エピペン」は千葉会員を介して入手、他に蜂スプレーも準備、更に一般参加者には白に近い服装を呼びかけ、通知した。

さて、当日は、更に遠藤、千葉両会員から、クマ、又はハチに遭遇した場合の対処方法をわかりやすくご説明いただき、8時40分、いよいよ登山口を出発。

最年少の葉純ちゃん(2歳)だけは母親の背に、他の子も元気に登りだす。11月初旬の里山といえど紅葉の真っ盛り、とくに亀ノ子石を過ぎたあたりが見事だった。

見晴らし台で、遠藤会員から七ツ森のお話しをお聞きし10時15分、その母親の山、笹倉山に到着。山頂の薬師堂を参拝後、余裕をもって下山。11時30分、全員無事、登山口に着いた。

最後はいもに鍋を囲んだ。フーフー、ハフハフと、美味しそうに食べる子供たちの笑顔が印象的、一匹のハチにも出会わなかったのは、まさに母なるお薬師さまのおかげに違いなかった。

※なお、エピペンは10月15日、秋保で実施された指導者講習会で、本部の野口いづみ講師による「山の医療と救急対策」を聞いて、さっそく準備したもの。

☆第4回登山教室（オボコンベ）

- ・実施日：平成28年11月27日
- ・コース：尾根コース登山口—オボコンベ—マンモス岩—分岐点—桐の目沢出合い—沢コース登山口—尾根コース登山口
- ・参加者：（支部会員）佐藤昭次郎・太田 正・高橋 功・三宅 泰（支部友会員）津久井 宏・川嶋邦子・津田久美子・村上せつ子・赤間敏子・山田ふき子
（一般参加者）千葉善年・今野範子・叶 芳雄・後藤達雄・後藤裕恵・水鳥京子・土海隆義・家坂昭弘・柴田健一・勝又正昭・曳地孝志・黒沢孝悦・畑岡尚美・安孫子奈美（計24名）

・報告：担当 三宅 泰

昨年からの「登山教室」をふり返ってみると…。

第1回目が平成27年5月24日の黒伏山（1227m）。参加者は一般参加5名を含む計21名。2回目が同年9月20日の蔵王、不忘山（1,705m）。一般参加14名を含む29名（この時は山形支部の伊藤会員が、遠く遊佐町から参加してくれた）。3回目が28年5月22日の仙台カゴ（1,270m）。一般参加13名を含む31名。

そして今回が第4回目登山教室、オボコンベ（595m）である。

標高が他の半分以下でありながら人気の山らしく、夕刊に公募記事が載ると、早速その日のうちに6~7名の応募があった。結局、一般参加者14名、支部友会員6名、支部会員4名、計24名となった。

11月27日8時、広瀬市民センターに集合。6台の車に分乗して尾根コース登山口着。準備体操後、9時30分、さっそく登山を開始する。30分ほどで尾根歩きとなるが、周りの木々の葉も落ちつくし、見晴らしがよくカラッと明るいのが何より

だった。やがて、頂上直下着。

ここで靴ひもを締めなおし、いよいよロープや岩角、木の根、木の枝につかまりながら登り、11時10分ごろから、次々と24名全員が頂上に着いた。曇ってはいしたが、周りの山々がよく見えた。

下りも落石、浮石等に注意しながら慎重におりてマンモス岩着。次は桐ノ目山への分岐点から一気に下山して12時10分、桐ノ目沢出合いに着いた。

ここでゆっくりと昼食をとったあと、足元を注意して沢を下りはじめる。倒木、流木がいたるところにあったいへん歩きにくい。やがて水管橋を渡り、林道を歩いて13時45分、もとの登山口に無事到着。市民センターで解散となった。

今回の山行は、当日が「朝方、雨、のち、くもり、午後から雨」との予報だったため、佐藤支部長と前日15時ギリギリまでねばって判断し決行したもの。日中、雨にあわなくて本当に幸いだった。案の定、市民センターに着いた途端、ポツリポツリと降りだしてきた。

エッセー編

☆エベレスト街道トレック

富塚 和衛・真味子

世界一の山は Everest。登頂する技量はないが、山と係るようになってから、何時かこの目で直に観てみたいと思っていた。昨年の11月に、そのチャンスが訪れ、夫婦でトレッキングに挑んだ。

11月9日、羽田からバンコックを経由してネパールの首都カトマンズ（標高1,300m）へ。午後、2015年4月の大地震の傷跡が残る市街地を観光、日本人が経営するホテルに一泊する。

11月10日、国内線でトレックの起点ルクラ（2,840m）に向かう。この旧ルクラ空港は世界一危険な空港と言われているが、1953年5月29日にエベレストの初登頂に成功し、この空港建設にも尽力したシェルパのテンジン・ノルゲイと、イギリス隊のエドモンド・ヒラリーに因み、今は、「テンジン・ヒラリー空港」と呼ばれている。

シェルパ、ポーターと空港で合流。愈々、ルクラの地からエベレスト街道トレックが始まる。まずは、今宵の宿泊地パグデンに向かう。目的地のゴーキョ・ピークとの標高差は約2,500mだ。途中、荷を背負う若者達が行き交う。街道沿いには、日本でも目にする草花が幾種類か咲いている。

11月11日、パグデンからナムチェバザールへ向かう。ドゥード・コシ川沿いに

進み、門が立つモンジョでエベレスト国立公園の入園手続きを行い、ナムチバザールの街へ。入園料は（Sagarmatha National Park Entry Fee）、3,000ルピー。日本円で約3,000円だ。（サガルマータはネパール語でエベレストの意、因みに、チョモランマはチベット語）



エベレスト国立公園の入園門

モンジョからナムチェバザールまでは標高差にして、640m程。結構急な坂だが時間をかけてゆっくり登る。途中で、休



初めて目にしたエベレストの頂憩所がある。ここでエベレストの姿を初

めて目にする。

ヒマラヤ登山の拠点で別名シェルパの里と呼ばれるナムチェバザールには高度順応のため連泊する。宿泊先は北アルプスの山小屋で仕事をしたことがあるサーダーのアンジシェルパが経営する「A・D Friendship Lodge & Restaurant」だ。

11月12日、この日は、早朝から順応トレッキングだ。テンジン・ノルゲイ像が立つナムチェの街の一番高い丘まで往復のトレック。



テンジン・ノルゲイ像

朝食後には、街の向かいのシャンボチエの丘を越えて峠に建つホテルまで往復する。

11月13日、愈々、本格的なヒマラヤン・トレッキングの始まりだ。世界第4



ローチェ（左肩がエベレストの頂）位のローツェ（8,515m）を正面に見なが

らタンボチエに向かう。

途中で、サナサでカラ・パタールへの道を分けて、モン・ラ峠（3,973m）まで登る。そこから谷底まで下ると今宵の宿があるポルツェタンガだ。川を挟んだ絶壁にヒマラヤ山羊の姿があった。

11月14日、夏には放牧地となるドーレに向かう。標高は4,000mを超える。

11月15日、ドゥード・コシ川見下ろす山腹の斜面を、アップダウンを繰り返しながらマチュエルモに向かう。この地も、夏にはヤクが放牧されるのだという。

この日は、この地の祭りの日だという。ロッジの女ご主人を中心にシェルパやポーターが、歌と踊りの余興を夕食時に披露してくれた。



余興に講じるシェルパ等の皆さん

11月16日、今日はトレッキング最後の集落であるゴーキョまでの道程だ。山腹から尾根に出ると日本人が初登頂というギャチュンカン等の8,000m級の山々が見えて来る。大きな氷河のモレーンを右手に見ながら緩やかな川辺を登ると氷河湖が現れる。3つ目の氷河湖の畔に佇む集落がゴーキョ（4,790m）。今日は強行軍だ。ロッジに荷物をデボし、ヘッドランプとペットボトルを持って、ゴーキョ・ピー

ク (5,483m) に向かう。この集落からピークまでの標高差は約 730m。往復 4 時間ほどの行程だ。

氷河湖の流入部に石積みされた登山道を登山口へと向かう。左手に湖を見ながら高度を稼ぐも、夫婦二人とも足が重く芳しくない。



ゴーキョ・ピーク

シェルパの力を借りながら、何とか、五色の祈願旗タルチョーがはためくピークに辿り着く。このタルチョー、1 回舞えば、1 回経を読んだと同じ功德があるそうだ。

このピークに、苦勞しながらも登って来た甲斐があった。エベレストが邪魔するものもなく右に平らな頂のヌプツェ (7,861m) と後ろに鋭鋒のローツェ、更に右に世界第 5 位の標高を持つマカルー

(8,463m) を従えて、暮れなずむ空に赤く染めはじめた世界一の雄姿を惜しげもなく見せてくれていた。

辺りが暗くなるまでエベレストの世界一の夕焼けを脳裏に焼き付け下山することに。ここで大失敗に気付いた。ヘッドランプをロッジにおいて来てしまったのだ。仕方なく、シェルパと女房の明かりを頼りにガレ場の山道を下りて行く。途中で、薄暗い空に鳥が舞い上がった。シ



左からエベレスト、ヌプツェ、ローツェ、マカルー

ェルパに訊くとネパールの「雷鳥」だと教えてくれた。

11 月 17 日、今日は安息日だ。昨日、夕焼けするエベレストを眺望するため、頑張つてゴーキョ・ピークに登ったご褒美だ。日が高くなってから裏山に登ってみた。モレーンに乗ったンゴズンパ氷河が真下に見える。長閑で昼寝でしたくなるような陽気だ。暫く、石の上で過ごす。手前には昨日登ったゴーキョ・ピークやその麓の第 3 ゴーキョ湖が直ぐ近く、ほんの傍で絵葉書のような風景を見せている。

11 月 18 日、今日は長丁場だ。帰路は往路と異なるレンジョ・パスを越えて下るルート。まだ薄暗い早朝にロッジを出発する。日が昇らない時間帯は放射冷却の所為か、可なりに肌寒い。レンジョ・パスまではゴーキョピークまでの道程どころではない。途中でロッジの朝食を摂り、息を切らしながら終盤の急登を凌ぎ峠に辿り着く。峠からの眺望は、ゴーキョ・ピークトは一味違うヒマラヤの壮大な山岳風景が広がる。

岩場、ガレ場を下り続けること約 10 時間、ルンデ (4,380m) の集落のロッジに着く。このロッジアメニティがすこぶる悪

く、閉口した。

11月19日、ルンデからボーデ・コシ川沿いにターメの集落(3,800m)まで下る。途中の山間でネパールの国鳥の雉と出会う。色鮮やかな瑠璃色の羽が印象的だ。



ネパールの国鳥の雉

11月20日、ターメから往路に連泊したナムチバザールに向かう。ネパールの里山(集落近くの山)は、燃料として木々を伐採して来たために、はげ山が目立つ。今は、緑の保全に国も力を入れており植林が行われるようになったと言う。又、木々に変わるエネルギー源確保のために水力発電や、太陽光パネルの設置が始まっているとサーダーのアンジが教えてくれた。ナムチバザールではアンジのロッジに宿泊する。

11月21日、ルクラの街に下り一泊する。宿泊したロッジの御主人は仙台に来たことがある方で、シェルパとして「仙台のヤシマさん」と言う名前の方とエベレストに登頂したと、懐かしむかのように片言の日本語で話されていた。宮城支部の八嶋会員では、想像しつつお話を伺った。11月22日、テンジン・ヒラリー飛行場からカトマンズへ。往路で宿泊したサンセットビューホテルに再度の宿を取り、

ホテルにて荷を解き市内の病院へ直行する。実は私にとって、初めてのエベレス



ロッジの御主人 (ワング・ヨンデン)

ト街道トレッキングは、高山病との戦いとなった。持参した高山病薬のダイヤモンドを予防的に服用していたのだが、スナムチェバザールを過ぎて標高4,000mを越える辺りから、胃の調子を崩してしまい食物を受け付けなくなってしまった。レンジョ・パスを越える時には、酸素急吸入をしながらの山旅となり、最後のルクラまでの半日は、歩く体力も尽き驢馬に跨っての辛い帰路となった。病院での血液検査では、カリウムが異常に低く、半日かけての点滴治療を受けた。



カトマンズ市内の病院で点滴中

体重も6kg減っていた。因みに、カリウムはバナナに多く含まれているそうで

バナナが2本出て来た。血液検査を再度受け、治療の終了を告げられホテルへと引き返した。約10時間にも及ぶ点滴治療だった。治療のお陰で体力も少しは回復したようで、ホテルに帰って久しぶりに食事を摂った。メニューは雑炊。美味しくもあり、苦くもあった。

11月23日、カトマンズ空港からバンコク空港を経由して24日の早朝に成田着。

初めてのエベレスト街道トレッキングは、夕日に映えるエベレストの頂の言葉に尽くし得ないあの美しさ、そしてヒマラヤ山脈の雪を被る山々が、幾つもの巒となって続く世界一の山岳風景の雄大さに感動と言ひ、一方では、高山病という経験のない病気に見舞われると言う苦い体験と言ひ、国内では味わうことの無い、ある意味、大変貴重な時を過ごす事が出来たのではないかと思える我々夫婦に取っては忘れ得ない素晴らしい山旅だった。



エベレスト街道の子供



エベレストとヒマラヤ山脈
(ハマランガ・ヒマール)

☆チベット仏教とエベレスト街道

エベレスト街道を歩いているとチベット仏教に関する物を良く目にする。この地に住む人々の信仰心を物語っているのではないかと思う。シェルパの中にも将来は、僧侶になるのだと言う心の優しい青年がいたのも頷ける。



《タルチョー》

峠や集落近くの尾根で良く見られる祈願旗。白(空)、赤(火)、黄(大地)、青(水)の4旗には呪文が書かれていると言う。



《チョルテン》

仏塔のこと。チベットの人達は塔の周りを巡拝する習わしがあると言う。手前には、日本でも見られるマニ車。

編集後記

『宮城山岳通信』第8号をお届けします。

会報・編集出版委員会の委員長として最後の役割となる「宮城山岳通信」の第8号の編集と発行を終え、ここに支部会員の皆さんにお届けすることができて安堵の気持ちで一杯です。これまで発行に際して多くのご支援をいただきましたことに、会報・編集出版委員を代表して厚く感謝申し上げます。

次号からは、新しい会報・編集出版委員会と委員長によって編集・発行されて支部会員の皆さんに届けられることになっております。この会報や通信の発行は、宮城の山岳文化活動と登山活動を今後もこれまで同様に継続し、さらにはこれまで以上に発展させて後世に継承するうえで必要不可欠なものと思っております。このような意義を持つ日本山岳会宮城支部の会報と通信につきまして、これからも支部会員の皆さんの絶大なご協力とご支援をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

平成29年4月吉日

日本山岳会宮城支部
会報編集出版委員長 三宅 泰

宮城山岳通信 第8号

発行 公益社団法人日本山岳会宮城支部

発行日 2017年4月7日

発行人 佐藤昭次郎

編集員 三宅 泰 富塚和衛 太田 正

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中9-12

富塚和衛

Tel・Fax022-255-7398 携帯 090-2790-3771